

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4795500042
法人名	有限会社 新生クリーンサービス
事業所名	グループホーム みなみ
所在地	〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里3107-364 (電話) 0980-73-0975

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成 21 年 3 月 23 日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人
非常勤	4 人
常勤換算	10 人

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	うむやすみやすん診療所 永和歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は市街地近郊の農村地域、七原集落内にあり、約600坪を擁する敷地内に新築されている。隣接して小学校、警察の安全学校、ミニ公園等がある。また程近い所に県立病院やスーパーがあり利便性に恵まれた立地環境の中にある。ハード面においては、高齢者の機能の特性を配慮したバリアフリーとなっており、廊下等の共用空間には手すりが取り付けられ安全面が確保されている。利用者はこうした恵まれた施設で職員に守られながら穏やかに日々の暮らしを送っている。日々の変化が多く、また自分から意思を伝える事が困難な認知症高齢者に職員は寄り添い、情報を共有し日々のケアサービスに取り組んでいる。開設2年目であるが日々試行錯誤を重ねながらも良質のサービスを提供する為、チームが一体感を持って努力している様子が伺われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題であった運営推進会議が設置され初回運営推進会議が開かれた。災害対策について、防火訓練については自主的に年1回実施している。消防署に消防計画作成届出を提出する準備をしている。また火災通報装置を平成21年度に、平成24年度迄にはスプリンクラーを導入予定である。一部課題については次年度に繰り越される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目を運営者と管理者でまとめた。利用者本位のサービスを行っていく上で、自己評価に取り組む事は日頃の業務の見直しや点検、ケアの大切さを再確認する機会となる。今後は自己評価項目を全職員で手分けして行う事になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	初回の運営推進会議が開催され、市担当者、民生委員、家族代表等が参加した。討議内容は事業所の紹介、事業所からの報告や提案が主体となった。運営推進会議は3ヶ月に1回定例として開催予定である。今後、自治会長をメンバーに迎え入れ、地域と事業所双方間の行事参加交流を計画している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	当事業所は家族の来訪が多く、家族や利用者が何でも言いやすい雰囲気作りに配慮している。苦情や意見は直接職員に話されたり意見交換の場を持っている。また業務日誌でも伝達している。家族代表が運営推進会議にも参加している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接した小学校と連携が取られており、散歩コースに利用したり、運動会に出かけて行く事もある。日常的な地域との参加交流は少ない。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が開設前に県内の多くの事業所を見学しながら、独自の理念を作り上げた。利用者の尊厳を尊重しつつ家庭的な環境の下で暮らせる支援と共に、地域との関係性強化を謳った理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで理念について読み上げ確認している。日々のサービスが理念に添っているのか確認し、具体的なケアについても話し合い、ケアの統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夕方、利用者と散歩し挨拶を交わしながら地域住民との関りを持っている。隣接小学校の運動会への参加、学校駅伝見学と応援、宮古学園へ外出交流など、頻繁ではないが地域との交流に努めている。自治会行事を通しての相互間交流が少ない。	○	自治会加入を早期に行い、地域活動を把握し交流を深めつつ理解と協力を要請しながら、地域密着の意義に沿った関係性強化を築きあげる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は運営者と管理者がまとめた。職員が評価に携わっておらず、評価の意義や目的の理解には乏しい。	○	サービスの質の向上確保の狙いもあり自己評価、外部評価は全職員で取り組む姿勢が求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、初回運営推進会議を1月に開催した。市担当者、家族代表、地域民生委員等が参加した。事業所の紹介、取り組みの状況の報告、今後の取組み等が話し合われた。	○	テーマを設定し定例化していく事で、委員の中にも定着していくものと思われる。今後の積極的な取組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する研修は積極的に受講している。「スプリンクラーの設置について」の研修を運営者が受講した。今後、法改正についての勉強会等も企画して、市との密接な連携を持ち質の向上に取り組む意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会が多く、利用者の健康状態や暮らしぶりはその都度、口頭で伝えている。家族からの要望は主に食事の嗜好についてが多く、出来る範囲で対応している。職員の異動や退職については来訪時に報告したり、電話で伝えている。基本的に金銭管理はしていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情が言いやすい環境作りに努めており、直接職員へ話している。また日報に記入して全員で把握する様に努めている。遠隔地にいる家族には月1回の請求書と一緒に利用者の写真を同封し郵送している。意見箱の設置を検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職種に合わず離職した職員もいたが、1ヶ月前から家族へ来訪時に直接伝えたり、電話で伝えたりして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。離職した元職員も利用者の慰撫激励に訪ねて来て交流している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は管理者が「認知症キャラバン」の講習を受けてきたが全職員対象に報告会を設けていなかった。職員の殆どが研修や勉強会の機会が設定されていない。	○	働きながらの学びは負担も大きいですが、管理者や職員の育成とサービスの質の向上の為、年間研修計画書を作成して欲しい。島内、事業所内での勉強会や研修などが日常的に行われ、段階に応じた育成を積極的に行うことを期待する。また研修報告を発表する場を設け、全職員が技術や知識をつける機会の確保に期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は沖縄県グループホーム連絡会の準メンバーで、ネットワークづくりには積極的に参加している。島内での一部の同業者間で職員、管理者、利用者の訪問交流が持たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族と一緒に一日体験入所をさせている。昼食を挟んで利用者との談話をしたり、希望があればシャワー浴にも応じている。嫌がる利用者についても利用者に安心と信頼が持てる関係づくりを工夫し、スムーズな利用へと繋ぐ努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を活かし、昔民具として作っていたススキでホウキを作ったり、お手玉遊びを教わったり、園内の畑で野菜の種まきから収穫までの一連の作業を一緒に行って、共に支えあえる関係作りに留意している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みのパーマ屋さんへ外出させたりしている。希望や思いが表出困難な利用者でも、過去の職業や趣味など得意分野を引き出す工夫をしている。さらに家族訪問を兼ねて利用者が本来持っている力を把握してサービスに活かされたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回ミーティングを持ち、職員全員で介護計画の検討を行っている。変化の無い利用者への定期的な見直し、急変時の見直しが曖昧で家族や医療関係者、市担当者からの意見やアイデアが反映されていない。	○	モニタリングは確実に実施し、記録の整備を早急に臨みたい。介護計画書が画一的なものにならない様に事業者以外の関係者の意見を取り入れ、個別に本人本位の具体的な計画作成が臨まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合、職員は即管理者に報告を行っている。変化が生じた場合や急変時の介護計画見直しについては管理者と介護支援専門員とで行っている。不穏な利用者への対処は家族の意見も入れて介護計画に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が不穏な時や、要望があれば家族の宿泊にも柔軟に対応している。仏様の供養の為のお茶湯を希望する利用者については旧暦1日と15日に外出支援している。住民検診には家族と職員が同伴して受診している。家族からお小遣いを頂いた利用者の希望を聞き入れ、飲み物を買いに一緒に外出している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みの医療機関への受診を継続させている。精神科受診を嫌がる利用者には往診の形態をとって支援している。家族が同行する事もあり、本人や家族の希望に応じた対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアに対しては入居時に家族に説明しているが、終末に対する対応指針の明記が重要事項説明書に盛り込まれていない。出来るだけ早期に事業所の対応についてマニュアルを作成し、家族が安心して納得したケアの充実が図れる様にしていきたい。	○	事業所が対応出来る最大のケアについて、全職員が情報の共有し、利用者や家族が安心してサービスが受けられるような方針の統一が求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ティッシュや汚れ物をタンスに仕舞い込む利用者には、気配りして取り除いている。咀嚼力の低下で食事が遅い方には個人のペースに合わせて見守りながら一緒に食事をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが、その日にしたいことを優先させている。サイコロゲームや風船バレーなどを取り入れている。また季節感を体感できる様な工夫に努め、職員と利用者双方が参加して楽しむ暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で採れた野菜を利用してメニューに加えたり、旬の食材が入ったら利用者に調理法を教えて貰い献立を立てている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事を摂っている。食器の準備や野菜の下処理も一緒に行い、共に楽しめる雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に同姓介助でシャワー浴をしている。入浴時間は本人本位の希望に合わせて柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者に対しては人を変えて声かけをしているが無理強いはしていない。足のマッサージを毎日スケジュール化して行い、浮腫のケアを実践している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理前の野菜の下処理やモヤシのひげ取り、洗濯物たたみは日常的に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2~3回、利用者の健康状態や希望に合わせて、その日の天気を見ながら遠くへドライブに出かけている。週に1回周辺の散歩に連れ出し、車椅子の利用者には職員が付き添い、夕暮れ時の時間を共有している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	プライバシー尊重や護身の面から居室やトイレには鍵がとりつけられているが、日中は居室、玄関に鍵をかけず、職員で利用者の行動を見守っている。また職員は鍵をかけない事の意義を理解しケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は救命救急法(人工呼吸法、AEDの使い方)を2回行った。消防計画作成届を提出準備中である。火災報知機を平成21年度中に設置予定である。防火訓練は年1回、自主的に実施している。災害時に備えて火元責任者、通報担当者、避難誘導担当を割り振っている。また避難場所についても定めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理責任者が栄養バランス、カロリー計算して献立を立てている。キザミ食も実施しており、個人の食事量も記録している。体重測定を定期的に行い実施し栄養状況の把握に努めている。お茶の準備は台所カウンターと食卓に常備しているが、どの位水分を摂ったかを把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は中央部分にあり、食卓、テレビ、ソファが配置されている。太陽光線が天井側面から入り程よい明るさで、通風もよく居心地の良い空間である。廊下の大きな窓からは庭のバナナの木や小学校の校舎が見える。日中は快適なBGMが有線で流れている。台所からは共用空間や居室が見渡せ、利用者の行動がよく見える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を優先させ畳間やフローリングに即対応している。(畳間4室、フローリング5室)。居室は食堂の共用空間を挟んで対面式になっている。利用者が自宅で使っていたタンス、布団、枕、チャブ台、テレビ、夏冬物衣類など、持ち込んでもらい家庭的な雰囲気のある居室の工夫をしている。		